

## (5) 河川・水辺




### 1) 環境の特徴

安曇野市の河川は、高瀬川、中房川、穂高川、烏川、黒沢川、梓川等の北アルプス方面から流れる河川と潮沢川、会田川、濁沢等の東山方面から流れる河川があります。すべての河川は、犀川に合流します。これらの河川の上流域にあたる溪流は、ムカシヤンマやニッコウイワナ等の水生生物の重要な生息地となっています。

平野部の湧水地帯は、カワヂシャやホトケドジョウをはじめとする多くの水生生物の生息・生育環境となっています。池沼は農業用の溜池が少数あるだけですが、豊科の菖蒲池、穂高の牧の堤は、湿性や水生の植物の貴重な生育場所となっています。

また、犀川光ダム湖や明科御宝田遊水池には、冬季に多くの水鳥が飛来しています。

### 2) 環境を指標する種

環境	環境を指標する種
河川源流域（溪流） 	植物：オオカメノキ、オノエヤナギ、クロベ、コメツガ、シナノザサ、ダケカンバ、ミヤマカンスゲ、ムラサキヤシオツツジ  動物：コマドリ、ハコネサンショウウオ、ニッコウイワナ、オオナガレトビケラ、オビカゲロウ、ノギカワゲラ、ミネトワダカワゲラ、ミヤマノギカワゲラ、ムカシトンボ、ムカシヤンマ

環境	環境を指標する種
<p>河川上流域</p> 	<p>植物：オノエヤナギ、カワヤナギ、サワグルミ、トチノキ、フサザクラ</p> <p>動物：カワネズミ、オオルリ、カワガラス、キセキレイ、コマドリ、カジカ、ニッコウイワナ、オオナガレトビケラ、ノギカワゲラ、ムカシトンボ、ムカシヤンマ、サワガニ</p>
<p>河川中流域</p> 	<p>植物：アキグミ、ガマ、カワヤナギ、カワラアカザ、コゴメヤナギ、ツルヨシ、ノイバラ、ヨシ</p> <p>動物：アオサギ、イカルチドリ、オオヨシキリ、カルガモ、カワセミ、セグロセキレイ、ウグイ、アブラハヤ、アオサナエ、アオハダトンボ、アカガネオサムシ、オサムシモドキ、オビカゲロウ、カワラゴミムシ、カワラバッタ、トノサマバッタ、ナガサキアオジョウカイモドキ</p>
<p>湧水地</p> 	<p>植物：オオアカウキクサ、オニグルミ、カワヂシャ、バイカモ、ハンノキ、ミクリ、ヤナギ類</p> <p>動物：カワセミ、スナヤツメ、ホトケドジョウ、ガムシ、コオイムシ、オオエゾヨコエビ</p>
<p>池沼</p> 	<p>植物：ウメモドキ、サワギキョウ、スゲ類、フトヒルムシロ、ヨシ</p> <p>動物：カイツブリ、ギンブナ、ドジョウ、ガムシ、ギンヤンマ、コオイムシ、タイコウチ</p>

### 3) 代表的な地域

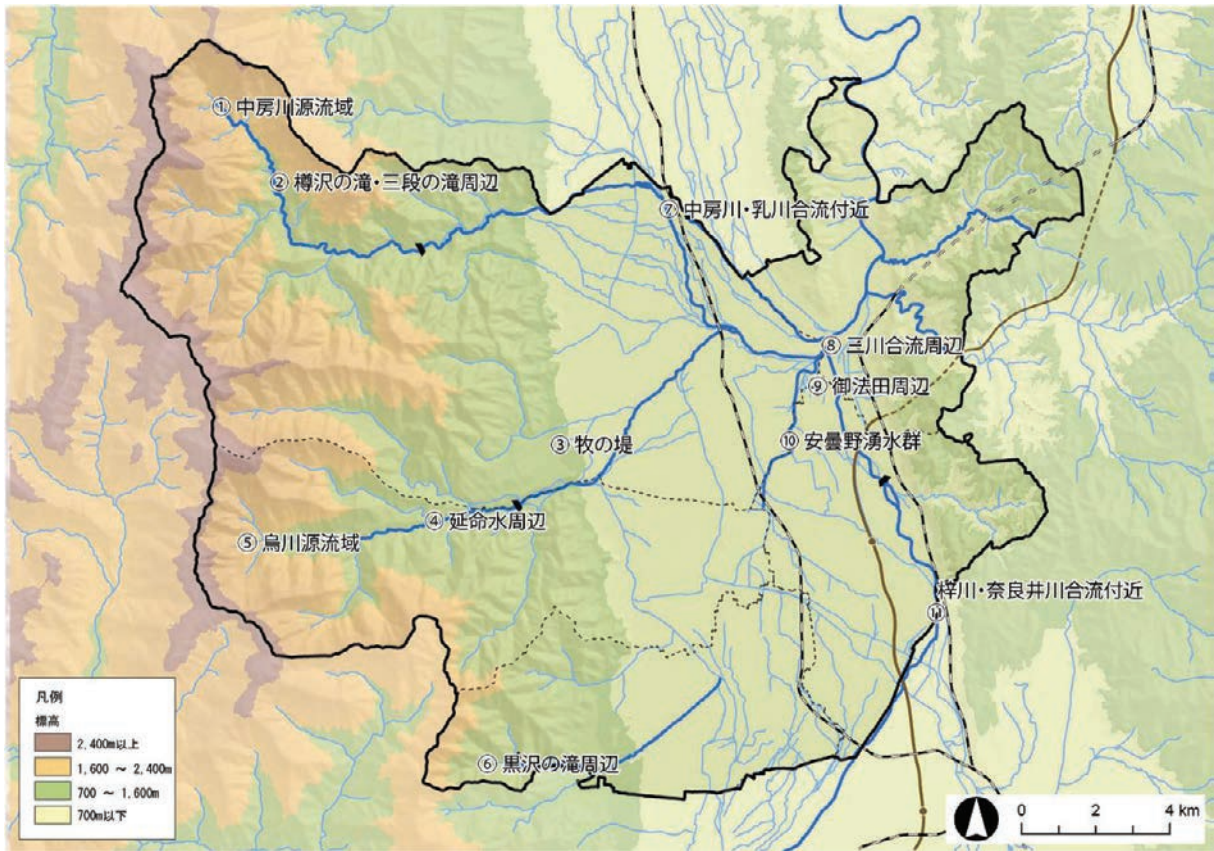
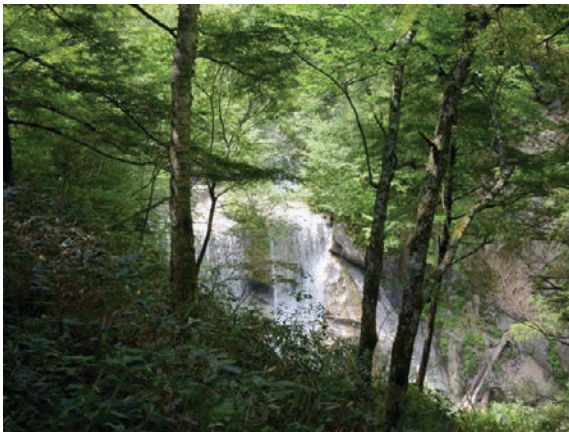


図 5-5 重要な自然環境のみられる代表的な地域（河川・水辺）

#### ① 中房川源流域



##### [地域の特徴]

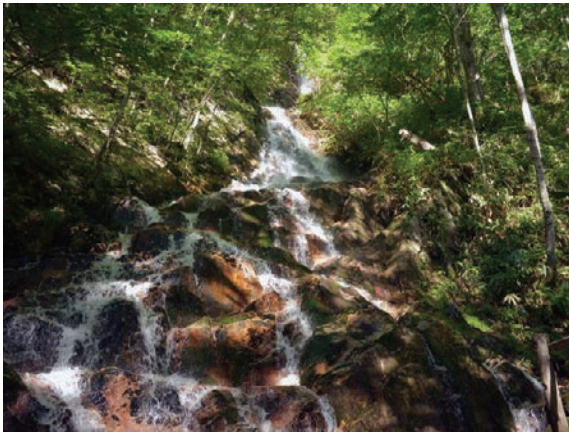
中房川の合戦沢との合流点より上流は、斜面に大規模崩壊地があつて大量の土砂を押し出すため、砂防堰堤が源流近くまで造られています。古い砂防堰堤では河床が安定しているので、ヤナギ類が群落を形成し、林床には草本類が生育しています。

##### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：オノエヤナギ、カラマツ、コメツガ、シラビソ、ダケカンバ、ホッスガヤ

動物：カワネズミ、カワガラス、コマドリ、ハコネサンショウウオ、ニッコウイワナ

## ②樽沢の滝・三段の滝周辺



### [地域の特徴]

樽沢の滝は、有明荘北方の駐車場の近くの標高約1,500mにある滝です。花こう岩の岩肌を水量の多い流れが、三段の滝をつくっています。滝の近くにはオオバミゾホオズキ等の湿地を好む植物がみられます。また、滝の近くには岩の上に根を張ったサワラがあります。

### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：ウラジロモミ、オオバキスミレ、オオバミゾホオズキ、サワグルミ、サワラ、マイヅルソウ、ミズナラ、ヤグルマソウ  
動物：カワガラス、コマドリ、ミソサザイ、ハコネサンショウウオ

## ③牧の堤



### [地域の特徴]

牧の堤（標高約700m）は溜池ですが、上の堤は大半が土砂で埋まり湿地になっています。多くの湿性の植物が生育しています。下の堤には食虫植物のモウセンゴケや、日本で最も小さいトンボであるハッチョウトンボがみられましたが、現在は絶滅しました。

### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：ウメモドキ、オニスゲ、カサスゲ、サワギキョウ、ツボスミレ、フトヒルムシロ、ミズゴケ類、ムカゴニンジン、ヨシ  
動物：アキアカネ、シオカラトンボ、シオヤトンボ

## ④延命水周辺



### [地域の特徴]

延命水（標高約1,000m）は、基盤岩の黒色泥岩とその上に乗る段丘礫層の境界から地下水が流れ出て、岩の割れ目を筋状に流下しています。岩盤にはコケ類やダイモンジソウが生育しています。また、飛沫帯や水の滴る<sup>したた</sup>環境に適応した特殊な水生昆虫が生息しています。

### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：ウバミソウ、コケ類、ダイモンジソウ  
動物：オオルリ、ミソサザイ、オビカゲロウ、ノギカワゲラ、ミネトワダカワゲラ、ミヤマノギカワゲラ

### ⑤烏川源流域



#### [地域の特徴]

烏川源流域の蝶沢と常念沢の合流点付近（標高約1,600m）は、河原が比較的広く、草原や低木林が認められます。また、針葉樹林は連続せず、ササ原と斑状に分布しています。清冽な水の中にはハコネサンショウウオが生息しています。

#### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：コメツガ、シラビソ、ダケカンバ、トウヒ

動物：カワガラス、コマドリ、ハコネサンショウウオ、ニッコウイワナ、オオナガレトビケラ、フタオセンブリ、ミネトワダカワゲラ、ムカシヤンマ

### ⑥黒沢の滝周辺



#### [地域の特徴]

黒沢の滝（標高約1,050m）は、黒沢川上流域に位置します。滝周辺の溪流環境は、ニッコウイワナ、トンボ類、カゲロウ類、ヒダサンショウウオ等の生息地となっています。

岩壁には、コケシノブ等が生育しています。

#### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：アカマツ、エゾイラクサ、オサシダ、オニルリソウ、カツラ、カラマツ、コチャルメルソウ、スギ

動物：アズミトガリネズミ、カワネズミ、オオルリ、カワガラス、ミソサザイ、ニッコウイワナ、オオナガレトビケラ、ガガンボカゲロウ、キソコマナガゴミムシ、ムカシトンボ

### ⑦中房川・乳川合流付近



#### [地域の特徴]

乳川と中房川は、穂高土場地区（標高約560m）で合流しています。すぐ東側には高瀬川も流れています。そのため、地面を少し掘り下げると伏流水が湧き出てきます。かつてはワサビ栽培も盛んにおこなわれていました。希少なカワヂシャも生育しています。

#### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：カワヂシャ、ツルヨシ、ヤナギ類

動物：キセキレイ

## ⑧三川合流周辺



### 【地域の特徴】

松本盆地の最低標高地点（標高約 515m）の明科下押野で高瀬川、穂高川が犀川に合流しています。明科中川手地区の犀川河川敷には御宝田遊水地があり、冬季に水鳥が飛来します。また、ヨシ原はオオヨシキリの繁殖地となっています。

### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：ウキヤガラ、オギ、カワラニガナ、カラヨモギ、コゴメヤナギ、ツルヨシ、ヒシ

動物：アオサギ、イカルチドリ、オオヨシキリ、セグロセキレイ、ウグイ、カジカ、スナヤツメ、オオエゾヨコエビ、アカガネオサムシ、カワラバッタ、ミイデラゴミムシ

## ⑨御法田周辺



### 【地域の特徴】

湧水地帯の豊富な水は、幾筋もの水路を通過して穂高等々力地区の御法田で万水川や蓼川に集まってきます。また、この湧水はワサビ田を潤しています。最近では、水路に外来生物のオオカワヂシャやコモチカワツボが繁殖し問題となっています。

### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：カワヂシャ、カワヤナギ、ミクリ

動物：カワセミ、セグロセキレイ、マガモ、カジカ、スナヤツメ、オオエゾヨコエビ

## ⑩安曇野湧水群



### 【地域の特徴】

豊科重柳地区では、万水川の右岸側の標高 530m 付近から地下水が豊富に湧き出しています。

豊科、穂高、明科にかけての湧水地は、環境省の名水百選「安曇野わさび田湧水群」に選ばれています。

### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：セリ、ツルヨシ、ドクゼリ、ミゾソバ

動物：カワセミ、セグロセキレイ、ガムシ、コオイムシ、タイコウチ、ヒメミズカマキリ、ヘイケボタル、オオエゾヨコエビ

## ⑪梓川・奈良井川合流付近



### [地域の特徴]

梓川と奈良井川合流付近の豊科熊倉地区河川敷（標高約 570m）には、規模は小さいものの、ケショウヤナギの群落があります。この群落は、犀川流域では最も下流に位置するものです。

### 【主に生息・生育する野生生物】

植物：エノキ、カワラヨモギ、ケショウヤナギ、タチヤナギ、ツルヨシ、ノイバラ

動物：アオサギ、イカルチドリ、イソシギ、ハクセキレイ、ウグイ、カジカ、アカガネオサムシ、ナガサキアオジョウカイモドキ、ホソヒラタシデムシ

## ■ ■ さんせん 三川合流 ■ ■

安曇野は、安曇節の一節に「槍で別れた梓と高瀬、巡り会うのが押野崎」とうたわれているように水が集まる場所です。いずれも北アルプスを源とする犀川、高瀬川、穂高川の<sup>さんせん</sup>三川が安曇野市明科付近で合流しており、その周辺は「三川合流」と呼ばれています。

三川合流周辺は、河川の水に加え、地下水も豊富に湧き出しています。この豊富な水は、ワサビ田や魚の養殖に加え、工場等でも活用されています。

これまで、安曇野の人々は、豊かな水に感謝しながら生活を営んできました。このようなこともあり、安曇野市観光協会では、水の恩恵をたたえる祭り〈安曇野水まつり〉「お水むかえ」（5月上旬）、「お水かえし」（10月中旬）を実施しています。

「お水むかえ」は多くの恵みを生み出してくれる水に感謝し、一年の豊作、水難防止を祈願し、犀川、高瀬川、穂高川の三川が合流する地点で水を汲み上げます。その水は穂高神社に奉納されます。その行事は、常念、三股及び中房登山口の開山祭と同日におこなわれます。

「お水かえし」は安曇野を潤す水の恵みに感謝しながら、三川が合流する地点で水を取り、汲み上げた水は穂高神社に一晚奉納され、翌日穂高神社の奥社がある上高地の明神池に返されます。この時「生命を生み出す力水として再び安曇野へお下り戴きますように」との祈りを捧げます。